第 23 回　中国病院薬学研究会
「地域医療を見すえた薬剤師外来の取り組み」

周術期管理から考える地域医療連携

岡山大学病院（以下当院）では、周術期管理センター（PERIO ： Perioperative Management Center）が 2008 年に開設され、手術が決まった外来の時点から、多職種チームで患者をサポートとしている。2015 年 6 月より専従の薬剤師が、手術予定患者について麻酔科術前外来にて全例関与している。手術 1～2 週間前に、医師の診察前に薬剤師による面談を行っている。薬剤師は、使用中の薬剤やアレルギー歴などの情報収集を行い、周術期に休薬すべき薬剤を確認している。外来から薬剤師が関わることで、入院してから休薬が必要な薬を使用しており手術が延期となる事例は、ほぼ無くなっている。しかし、患者の理解不足で休薬ができていない場合や麻酔科受診の時点で休薬が間に合わない場合もある。今後、高齢化が進むにつれ、ますます認知機能低下による理解不足が問題になることが予想される。また、情報共有および連携ツールとしてはお薬手帳が汎用されているが、地域医療ネットワークの活用も臨まれる。本公演では周術期における連携について薬局薬剤師へのアンケート調査結果や休薬が困難であった事例を紹介し、地域医療を見すえて周術期において病院薬剤師が外来で何ができるのか、今後、取り組むべきことを考えたい。